このたびは、「**Citizen Eco-Drive**」をお買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前にこの取扱説明書を良くお読みの上、正しくお使いくださいますようお願い申し上げます。なお、この取扱説明書は大切に保管し、必要に応じてご覧ください。
また、シチズンホームページ(http://citizen.jp/)の「サポート」⇒「時計の操作ガイド」⇒「側番号:B74*]でも操作説明がご覧いただけます。

この時計は水深計及びクロノグラフ機能を内蔵したアナログダイバーズウオッチです。
- 水を感知すると自動的にダイビングモードに切り替わり水深計測を行います。(水深計測機能)
- ダイビングにおける最大深度を自動的にメモします。(最大深度メモ機能)
- クロノグラフは1秒単位で最大50分まで計測可能です。(クロノグラフ計測機能)
- 光発電(エコドライブ)機能を搭載したソーラーパワーウオッチです。

安全にお使いいただくために－必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

⚠ 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が高い」内容です。
⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡又は重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性又は物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。
（下記は、絵表示の一例です。）

⚠	このような絵表示は、気を付けていただきたい「注意喚起」内容です。
🛇	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。

⚠ 危険

この取扱説明書をよくお読みいただき、取り扱いや操作方法、また、表示、制限等を十分にご理解いただき正しくお使いください。
誤った使い方、表示する警告や注意の指示を怠ると、死亡事故または重症事故につながる可能性があります。

⚠ 注意

ダイビングは危険を伴うスポーツです。ダイビングでのご使用にあたっては、本書で述べる時計の取り扱いを正しく理解し、それを厳守してください。
万一この取扱説明書に記載していない取り扱いをした場合には、時計が正しく機能しない場合があります。

この時計の修理について
この時計のバンドを除く全ての修理は「メーカー修理」となります。
修理、点検の際は弊社お問い合わせ窓口へご依頼ください。

⚠ 警告 ダイビングでのご使用に当たって

この時計の水深計測機能は公的機関の計測器として認可されたものではありません。計測値はあくまでも目安としてご使用ください
ダイビングは危険を伴うスポーツです。この時計をダイビングで使用する際は、必ず資格を持ったインストラクターからダイビングに関する教育やトレーニングを受け、安全なダイビングに必要な経験と技術を習得した上で、ルールを守ってご使用ください。

- この時計を使用してのダイビングは、レクリエーションダイビング（無減圧潜水）に限られます。減圧潜水、飽和潜水、標高の高い場所での潜水には使用しないでください。また、＋10°C～＋40°Cの温度範囲の海水中で使用可能ですが、海水（比重が1.025）以外では正しい深度を表示しません。
- 大気の急激な変動や、水中の温度変化が時計の表示や性能に影響を及ぼすことがあります。他の計器と併用することが必要です。この時計の表示はあくまでも目安としてお使いください。
- レクリエーションダイビングといえども、ダイビングには危険を伴います。資格を持ったインストラクターからスキューバダイビングの正しい訓練を受け、安全な潜水に必要な経験と技術を習得し、この時計の取り扱いと操作を完全にマスターしてからこの時計をダイビングの補助計器としてご使用下さい。

⚠ 警告

個々のダイバーは、自分にあった安全の為のダイビング計画、遂行を責任持って行ってください。
この時計は減圧症を防ぐ機能はありません。また、個々の使用者の生理的な機能の違いや、その日の体調の差異をチェックすることはできません。
減圧症の発症には体調が大きく関与しているため、その日の体調によって減圧症となる危険の度合いは異なります。病気、疲労、睡眠不足、二日酔いなど体調の悪い場合にはダイビングを避けることをお勧めします。

⚠ 注意 ダイビングでのご使用に当たって

ダイビングウォッチのご使用に当たっては、必ず各種のダイビングに関する教育やトレーニングを受け、ルールを守ってご使用ください。
時計の取り扱いと注意事項を十分に理解して、正しくご使用ください。
万一この取扱説明書に記載していない取り扱いをした場合には、時計が正しく機能しない場合がありますのでご注意ください。

⚠ 注意 安全なダイビングをするために

- ダイビングの際には必ず**バディ・システム**をお守りください。
  (バディ・システム: 安全の為に2人で組んで潜水すること)
- 安全のために水深約20m位までのスポーツダイビングをお勧めします。
- ダイビング前にはあらかじめ十分な充電を行ってください。
  充電が不足している状態(機能針がNG表示)では水深計測機能は使用できません。
  またダイビング中に充電不足になった場合は水深計測は中止されます。十分ご注意ください。
- 安全のためのルールにしたがって、ダイビング後は十分な休息をおとりください。
  ダイビング後、正しく休息時間をとらずに飛行機に搭乗したり高所に移動すると減圧症を起こす危険があります。

⃠ 禁止 ダイビングでの使用禁止事項

次のようなときは、ダイビングにこの時計を使用しないでください。

- 充電量目安表示が「N.G」を表示しているとき。
  …充電量目安表示が「N.G」を示している場合は水深計測ができません。
  また、ダイビング中に「N.G」表示になった場合は、水深計測が中止されますので、すぐにダイビングでの使用を中止してください。
- 時計が止まったり、異常が生じたとき。（ダイビングの機材や岩など、固いものにぶつけたりしないように注意してください。）
- 保証温度範囲外での水深計測。
  …この時計の水深計測精度を保証する温度範囲は＋10℃～＋40℃です。
- 危険を伴う行動や状況の判断に。
  …この時計は水難事故などの予防や応急用危機として造られていません。
- ヘリウムガス雰囲気中（飽和潜水など）での使用。
  …故障や破損などの原因になります。

ダイビングにおける注意

⚠ **警告** ダイビングの前に次のことを確認してください。

- 時刻モードになっていることを確認してください。
  (クロノグラフモードからはダイビングモードには切り替わりません)
- 機能針(充電量目安表示)の位置を確認してください。
  機能針が「N.G」を示しているときは、充電不足のためダイビングモードに切り替わりません。「LV.2(レベル2)」または「LV.1(レベル1)」になるまで十分に充電を行ってください。
- 水感知センサーが作動しダイビングモードに切り替わったときに、機能針(水深表示)が0mの位置を示していることを確認してください。
- りゅうずがきちんと押し込まれていることを確認してください。
- バンドが時計本体にしっかり固定されているか確認してください。
- バンドやガラスにヒビ、傷、カケなどの異常がないか確認してください。
- 回転ベゼルが正常に回転するか確認してください。
- 時刻、日付が正しくセットされているか確認してください。

⚠ 警告 ダイビング中は次のことを必ず守ってください。

- 急速な浮上は避けてください。潜水病など、人体に影響を及ぼします。安全な浮上速度を守ってください。
- 水中では、Ⓑボタン(最大深度メモ呼び出し操作)以外のプッシュボタンやりゅうず操作は絶対にしないでください。防水不良など故障の原因になります。
- 水中で時計が正しく作動しない場合には、速やかに浮上してください。浮上速度9m/分以内の浮上速度を守って速やかに浮上を開始してください。

⚠ 警告 ダイビング後は次のことを必ず守ってください。

- 時計に付着した海水や泥、砂などはりゅずうがねじ締めされていることを確認の上真水で良く洗い落とし、乾いた布などで水分を拭き取ってください。
- センサー部にゴミや汚れがつまった場合は取り除いてください。ゴミなどが入った場合は、真水で洗い流してください。センサーカバーを外したり、先のとがったものでつついたりしないだください。また、エアーガンなどで高い圧力の風を吹き付けないでください。取り除けない場合は弊社お問い合わせ窓口にご相談ください。

⚠ 注意 高所及び淡水における潜水について

- 高所及び淡水におけるダイビングは、特別の安全教育を受けた後でご使用ください。
- 海抜4000mを越える所では正しい水深計測ができませんので使用しないでください。
- この時計は、海水基準(比重1.025)で換算した水深を表示しますので、淡水では表示している水深よりも実際は2.5%深いことになります。
  例) 20m(表示している水深)×1.025=20.5m (実際の水深)

圧力センサーは、ダイビングモードに切り替わったときの周囲圧を水深０ｍとして設定しますので、高所の湖においてもダイビングモードへ切り替わった時点の標高を０ｍと設定します。但し、4000mを越える高所では正しい計測ができませんので使用しないでください。

ご使用になる前に

十分に光を当てて充電してからご使用下さい。

この時計には、電気エネルギーを蓄えるために二次電池が使われています。
一度フル充電すると2ヶ月間は充電しなくても時計は動き続けます。ただし、フル充電後ダイビングに使用できる期間(N.G表示まで)は、約1ヶ月間です。(週に2時間程度の潜水をした場合)

この時計の上手な使い方

毎日の充電を心がけてご使用されることをおすすめします。
水深計測やクロノグラフ計測などを含めてこの時計を快適にご使用頂くためには、常に余裕を持って充電することを心がけてください。
充電が不足してくると水深計測やクロノグラフなどが使用できなくなります。
この時計はどんなに充電しても過充電の心配はありません。
充電の際は、ソーラーセル(文字板面)に光を当ててください。

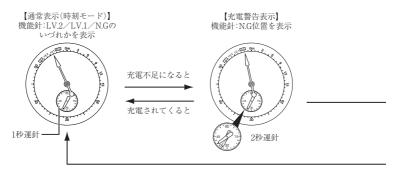
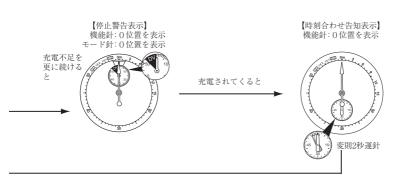
目 次

1. 各部の名称と役割　～巻頭見開きの時計図と合わせて

名称	時刻モード	ダイビングモード	クロノグラフモード
Ⓐボタン	モード切り替えなどに使用		
Ⓑボタン	最大深度メモの呼び出しやクロノグラフ計測などに使用		
機能針	充電量目安表示	深度表示	クロノグラフ秒
モード針	DV位置で停止	DV位置で停止	クロノグラフ分
時針	常に時刻(時)表示		
分針	常に時刻(分)表示		
秒針	常に時刻(秒)表示		
24時間針	常に時針と連動して24時間表示		
日付	常に日付を表示		
りゅうず	時刻･日付合わせに使用		

充電量目安表示 (LV1, LV2, N.G)	水深計測機能が使用可能か否かの充電量の目安を機能針が3段階で示します。
オーバーゾーンマーク	ダイビング中に深度が50mを越えたときや水深計測に異常があった場合に機能針がオーバーゾーンマークを示します。
水深計測目盛	水深計測読み取り用目盛
水感知センサー	水感知センサーが濡れると自動的にダイビングモードに切り替わります。
回転ベゼル	この回転ベゼルを使用してダイビングの経過時間を計測できます。
ソーラーセル	ソーラーセル(文字板面)に光が当たることによって時計を動かすのに必要な電気エネルギーを作り出しています。

2. ソーラーパワーウォッチ特有の機能について

この時計は、充電不足になると警告機能が働いて表示が切り替わります。

【停止警告表示】
機能針：0位置を表示
モード針：0位置を表示
充電不足を
更に続ける
と
充電されてくると
【時刻合わせ告知表示】
機能針：0位置を表示
変則2秒運針
充電を十分して、時刻合わせをすると

充電量目安表示について

充電量目安表示は、ダイビング(水深計測)に使用可能か否かの充電量の目安を機能針が３段階(LV.1／LV.2／N.G)で表示します。
ダイビングモードでは、圧力センサーや水感知センサーが作動し、消費電力量が増大します。ダイビングにご使用の際は、十分に充電を行った上で、この表示を目安に充電量を確認してください。

＜機能針がLV.1(56秒)を示している場合＞

水深20m程度のスポーツダイビング1回、約1時間程度に使用できる充電量を確保しています。

注意：時計に水分が付着するとダイビングモードに切り替わることがあります。

* 1時間以上ダイビングを続けた場合には、ダイビング中にN.G表示に切り替わり、水深計測が停止する可能性がありますので十分ご注意ください。

＜機能針がLV.2(54秒)位置を示している場合＞
ほぼフル充電されていますので安心してダイビングにご使用できます。

＜機能針がN.G(58秒)位置を示している場合＞
充電不足のため、ダイビングモードに切り替わりません。この状態では水深計測機能が作動しませんのでダイビングにはご使用になれません。
ダイビング中に「N.G」表示になった場合は、直ちにダイビングでのご使用を中止してください。

⚠ 注意

・ 充電量目安表示はあくまでも目安(参考)としてご使用ください。
・ 強い光による充電を行った場合、充電不足にもかかわらず一時的に機能針が「LV.1」や「LV.2」を示す場合があります。「N.G」表示から充電を行い、短時間で「LV.1」や「LV.2」になった場合は特に注意が必要です。
  できるだけダイビングを行う前に十分な充電を行い、ダイビング直前の充電量目安表示を確認するような使い方をおすすめします。(充電時間については、22ページの「3. ソーラーパワーウォッチ充電時間の目安」を参照してください。)

充電警告機能　（モード針：DV位置、機能針：N.G位置）

時計がどのモードにあっても充電不足になると、自動的に時刻モードに切り替わり秒針が2秒運針（2秒毎に2目盛りづつ運針）して充電不足を知らせます。（充電警告表示）
充電不足状態が更に約2日経過すると時計は停止します。

* クロノグラフ計測中の場合は計測は中止されます。
* 最大深度メモ呼び出し以外のボタン操作はできません。

時刻及び日付は正確に動いていますので光を当てて充電すれば、もとの1秒運針に戻ります。ダイビングにご使用になる場合には充電量目安表示が「LV.1」または「LV.2」になるまで更に十分な充電を行ってください。

停止警告機能　（モード針：0位置、機能針：0位置）

充電不足状態をさらに放置しておくと、約2日後には機能針とモード針が0位置に移動し、時計が停止していることを知らせます。（停止警告表示）

* この状態では全ての機能が停止します。

充電されると時刻合わせ告知表示に切り替わります

時刻合わせ告知機能　（モード針：０位置、機能針：０位置）

１度停止した時計に再び光を当てて充電していくと、針は動き出しますが、時刻は合っていないため、秒針が変則2秒運針（2秒毎に不規則に運針）して時刻が合っていないことを知らせます。（時刻合わせ告知表示）

30
2秒
2秒

十分に充電し、時刻を合わせ直すと通常表示に戻ります。 *充電が十分にされていても、時刻合わせ操作を行うまで変則2秒運針が続きます。

過充電防止機能

二次電池がフル充電されると、それ以上は充電されないように過充電防止機能が働きますので、安心して充電できます。

3. ソーラーパワーウォッチ充電時間の目安

時計のモデル(文字板の色など)により充電時間は異なります。
あくまでも目安としてご利用ください。

照度(ルックス)	環　境	充電時間		
		1日分の充電時間	止まり状態から1秒運針までの時間	フル充電時間
500	屋内照明	約2時間	約16時間	—
1,000	蛍光灯(30W)の下60cm～70cm	約50分	約6時間30分	—
3,000	蛍光灯(30W)の下20cm	約16分	約2時間30分	約18時間
10,000	曇天	約4分	約1時間	約５時間
100,000	夏の日の直射日光下	約2分	約45分	約2時間30分

* 充電時間は連続照射時間です。

フル充電時間…時計が停止している状態(停止警告表示)から最大に充電されるまでの時間。
1日分の充電時間…時計を1日動かすのに必要な時間(1秒運針時)

* ダイビング(1時間／日の場合)に使用するためには、前ページの表の1.5倍以上の充電時間が必要となります。

4. ソーラパワーウォッチ取り扱い上の注意

<時計は常に充電を心掛けてお使いください>

- 日常長袖などを着用していると、時計が隠れて光に当たらないため充電不足になりやすいのでご注意ください。
- 時計を外したときも、できるだけ明るい場所に置くように心がけると、時計は常に正しく動き続けます。

⚠ 注意　充電上の注意

充電の際に時計が高温になると、故障の原因となりますので、高温下（約＋60℃以上）での充電は避けてください。

例）白熱灯、ハロゲンランプなど、高温になりやすい光源に時計を近づけての充電。
　　車のダッシュボードなどの高温になりやすい場所での充電。

- 白熱灯で充電する時は、必ず50cm以上離して時計が高温にならないように注意して充電してください。

⚠ 警告　二次電池の取り扱いについて

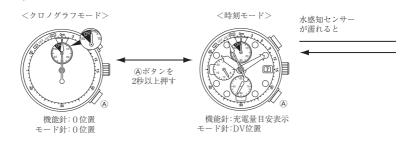
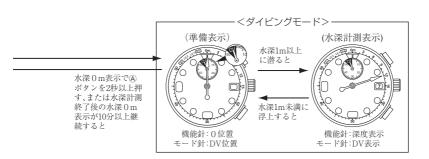
- お客様は時計から二次電池を絶対に取り出さないでください。
  やむを得ず二次電池を取り出した場合は、誤飲防止のため、幼児の手の届かない所に保管してください。万一、飲み込んだ場合には、ただちに医師に相談して治療を受けてください。
- 一般のゴミと一緒に捨てないでください。
  発火、環境破壊の原因となりますので、回収を行っている市町村の指示に従ってください。

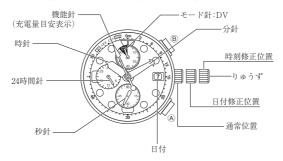
⚠ 警告　指定の二次電池以外は使用しないでください

- 他の種類の電池を組み込んでも、時計は作動しません。
  無理に一般の銀電池を使い、充電されると過充電となり、電池が破裂して、時計の破損および人体を傷つける危険がありますので、絶対に行わないでください。

5. モード(機能)の切り替え

- Ⓐボタンを2秒以上押す毎に「時刻モード」と「クロノグラフモード」が切り替わります。
- 「時刻モード」で水感知センサーが濡れると自動的に「ダイビングモード(準備状態)」に切り替わります。ただし、充電量目安表示が「N.G」を示している場合は、ダイビングモードに切り替わりません。

<ダイビングモード>
（準備表示）
(水深計測表示)
水深０m表示でⒶボタンを2秒以上押す、または水深計測終了後の水深０m表示が10分以上継続すると
水深1m以上に潜ると
水深1m未満に浮上すると
機能針：０位置
モード針：DV位置
機能針：深度表示
モード針：DV表示

6. 時刻・日付の合わせ方（時刻モード）

時刻モードでは、時刻と日付を表示します。
また、機能針は充電量の目安を３段階で表示します。
時刻（時、分、秒、24時間針）及び日付はモードに関係なくいつでも確認することができます。

時刻の合わせ方

時刻合わせは時刻モードで行います。

(1)りゅうずを回してねじをゆるめてから時刻修正位置(2段)に引き出すと、秒針が停止します。

(2)りゅうずを回して正しい時刻に合わせます。

(3)りゅうずを通常位置に押し込むと、時計はスタートします。

(4)りゅうずを回して確実にねじ締めします。

* りゅうずを時刻修正位置に引き出すと、機能針が0秒位置を示します。万一、機能針が0秒位置を示さない場合は、39ページの「10. 機能針の0位置修正」を参照して針位置を修正してください。

日付の合わせ方

(1)りゅうずを回してねじをゆるめてからりゅうずを日付修正位置(1段)に引き出します。

(2)りゅうずを回して合わせたい日付に合わせます。

(3)りゅうずを通常位置に押し込みます。

(4)りゅうずを回して確実にねじ締めします。

* 時計が午後９時〜午前1時の間を示している時に日付の修正を行うと、翌日になっても日付が切り替わらない場合がありますのでご注意ください。

<りゅうず操作上の注意>

この時計は防水性を維持するためにりゅうずがねじ締め式になっています。

- りゅうず操作をする場合は、りゅうずのねじをゆるめてから行ってください。
- 操作後は常に通常位置に戻して、必ずねじを締めてからご使用ください。
- りゅうずを引き出した状態では、ボタン操作を行わないでください。
  表示が切替わったり、針位置がずれる原因となります。
- 水滴などが時計に付着しているときや、水中でのりゅうず操作は行わないでください。時計内部に水が入り、防水不良などの原因となります。

7. ダイビングモード

充電が十分にされている状態で、「時刻モード」にし、水に潜るだけで水感知センサーが水を感知し、自動的にダイビングモードに切り替わり水深計測をはじめます。また、最新のダイビングでの最大深度を自動的に記憶(1データ)し、ダイビング終了後に呼び出し表示することができます。

<ダイビングモード(準備状態)>

* ダイビングモード(準備状態)に切り替わったときに機能針及びモード針が所定の位置(モード針:DV位置、機能針: 0位置)を示さない場合は、36ページの「9. このような場合には」を参照して針位置を修正してください。

＜水深計測表示＞

表示範囲:0〜50m(1秒毎に計測表示)
表示単位:1m(0.1m単位を四捨五入して表示、ただし1m未満は0m表示)

＜深度表示の読み取り方＞

ダイビング開始後、水深が1mを超えると水深計測が開始されます。ダイビング中に機能針が示した数字が現在水深を示します。

- 水深が1m未満のときは機能針は0mを表示します。
- 水深50mを超えると機能針はオーバーゾーンマーク(52秒位置)で停止し、水深表示範囲を越えたことを示します。再び50mより浅い水深に浮上すると現在水深表示に戻ります。

＜ダイビングモードの解除＞

(1)ダイビング終了後の水深1m未満(深度表示0m)で、Ⓐボタンを2秒以上押し続けると時刻モードに戻ります。
(2)ダイビング終了後の水深1m未満(深度表示０m)で約10分間経過すると自動的に時刻モードに戻ります。10分以内に再度水深1m以上に潜った場合は、潜水の継続とみなし水深計測は継続されます。

＊ 濡れエラー検出表示
ダイビングモード準備状態（水感知センサーが作動）で約1時間以上継続すると、機能針がオーバーゾーン表示をします。
この表示が続く場合は、36ページの「9. このような場合には」を参照してください。

＜最大深度メモの呼び出し方＞

（1）時刻モード、ダイビングモード（深度表示0m）でⒷボタンを押すと、機能針が最大深度メモを表示します。

（2）最大深度メモ表示中に再度Ⓑボタンを押すとメモ表示が解除されます。

＊ 最大深度メモ表示で30秒経過すると自動的にメモ表示は解除されます。

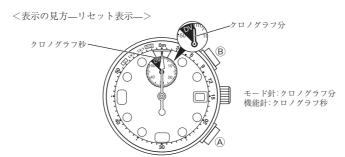
＊ 最大深度メモは、次回のダイビングを開始するまで記憶されます。

＊ 最大深度が1m未満の場合は最大深度メモは記憶されません。また、最大深度が50m以上の場合、最大深度メモはオーバーゾーンとして記憶されます。

＊ はじめて使用される場合、製品検査時のデータが表示される場合があります。

8. クロノグラフモード

このクロノグラフは、1秒単位で最大49分59秒まで計測できます。
50分の計測終了後は、リセット表示に戻り停止します。

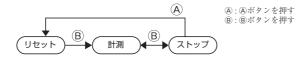
<表示の見方—リセット表示—>

* リセット表示で約3分間放置すると自動的に時刻モードに戻ります。

＜計測の仕方＞

(1)時刻モードでⒶボタンを2秒以上押してクロノグラフモードにします。機能針とモード針が0位置に早送りして停止します。

(2)Ⓑボタンを押す毎にスタート／ストップを繰り返します。

(3)ストップしているときにⒶボタンを押すとリセット表示に戻ります。

Ⓐ : Ⓐボタンを押す
Ⓑ : Ⓑボタンを押す

* ダイビングモードからはクロノグラフモードには切り替わりません。
* クロノグラフモードに切り替えたときや、クロノグラフをリセットしたときに機能針及びモード針が0位置を示さない場合は、36ページの「9. このような場合には」を参照して機能針またはモード針を0位置に合わせ直してください。
* クロノグラフ計測中はモードの切り替えはできません。また、ストップ中にモードを切り替えるとストップ時の値はリセットされます。

9. このような場合には

ソーラーパワーウォッチは、充電不足になると機能が制限されたり、各種警告表示をしますので、いづれの場合も最初に十分に充電を行ってください。

● 各針が所定の位置を示さない

誤って強い衝撃や強い静電気を時計に加えてしまうと、まれに時計の表示(針位置)が正しく表示されない場合があります。

- 以下の3つの状態で機能針(クロノグラフ秒針)が0位置を示さない場合(モード針は正常に表示)は、39ページの「10. 機能針の0位置修正」に従い操作してください。
  1) 時刻修正状態(りゅうず2段引き)にしたとき
  2) ダイビングモード(準備状態)に切り替わったとき
  3) クロノグラフリセット表示のとき
- 上記以外で機能針、モード針が所定の位置を示さない場合は、41ページの「11. オールリセット／針位置の修正」に従い操作してください。

● 秒針が2秒間隔で動く

充電不足により時計の停止が近づき、充電警告機能が働いています。
この場合は、十分な充電を行ってください。

* 詳しくは、16ページの「2. ソーラーパワーウォッチ特有の機能について」を参照ください。

● 秒針が2秒毎に不規則に動く
1度時計が停止したことを知らせる時刻合わせ告知機能が働いています。
この場合は、十分に充電をした後、時刻を合わせ直してください。

* 詳しくは、16ページの「2. ソーラーパワーウォッチ特有の機能について」を参照ください。

● モード切り替えができない
充電不足になると次の条件でモード切り替えができなくなります。

- 機能針がN.G位置を示しているときは、水感知センサーが水に濡れてもダイビングモードに切り替わりません。
- 充電警告機能が働くとクロノグラフモードへの切り替えができなくなります。この場合は、十分な充電を行ってください。

* 詳しくは、16ページの「2. ソーラーパワーウォッチ特有の機能について」を参照ください。

● 水深計測表示から時刻モードに戻らない
短時間に気圧の変化が起きる高所環境（飛行機内など）で、ダイビングモードに切り替わり（汗などの水分によっても水感知センサーが働きます）、1m相当以上の気圧変化があった場合、低所（地上）に降りても水深計測表示が0.0mに戻らず、ダイビングモードを解除できない場合があります。
水深4m以内の表示であれば、Ⓐボタンを2秒以上押すと、時刻モードに戻ります。4m以上を表示している場合は、41ページの「11. オールリセット／針位置の修正」を行ってください。

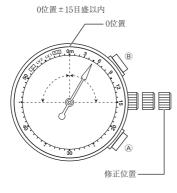
● 機能針がオーバーゾーンを表示し続ける

陸上で使用中も、水感知センサー部分に汚れや水分が付着していると水感知センサーが
作動し続けるため、「濡れエラー検出表示(機能針がオーバーゾーンを表示)」し続けます。
この場合は、水感知センサー部をよく洗浄した後、水分を完全に拭き取り乾燥させます。
水感知センサーが解除されると通常の表示に戻ります。

* この操作を行っても通常表示に戻らない場合は、圧力センサーの異常が考えられます。本製品の使用を中止して、お買い上げ店、またはお近くのお客様時計相談室へご相談ください。

● その他時計が異常な表示、動作をする

誤って強い衝撃や強い静電気を時計に加えてしまうと、まれに当取扱説明書に説明のない異常な
動きや動作をする場合があります。
この場合は、41ページの「11. オールリセット／針位置の修正」に従い操作してください。

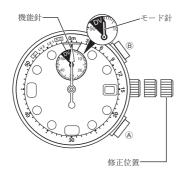
10. 機能針の0位置修正

(1)時刻モードまたはクロノグラフモードにしてりゅうずのねじをゆるめた後、2段引き出します。

(2)Ⓐボタン、またはⒷボタンを押して機能針を０位置に合わせます。
０位置を中心に機能針が右側にあるときはⒶボタンを押して機能針を0位置に合わせます。
０位置を中心に機能針が左側にあるときはⒷボタンを押して機能針を0位置に合わせます。

(3)りゅうずを通常位置に押し込み、ねじをきちんと緩めます。

* この操作での修正可能範囲は機能針が0位置から±15目盛以内です。それ以上0位置が合っていない場合は、41ページの「11. オールリセット／針位置の修正」に従い操作してください。
* りゅうずを2段引いた状態で3分以上放置するとボタンを押しても機能針は作動しません。この様な場合は、りゅうずを通常位置に押し込んだ後操作をやり直してください。
* りゅうずを操作する場合は必ず時計が濡れていない状態で行ってください。

時刻自動修正機能
クロノグラフモードで機能針の修正を行った場合、0位置合わせにかかった時間が4分以内であれば、時、分、秒針は正しい時刻に早送りしてスタートしますので時刻合わせの必要がありません。但し、途中でりゅうずを回してしまうと時刻が合わなくなりますのでご注意ください。4分以上経過した場合はクロノグラフ秒針の0位置修正と合わせて時刻修正が必要です。

11. オールリセット／針位置の修正

(1) りゅうずのねじをゆるめた後、2段引き出します。

(2) Ⓐ、Ⓑボタンを同時に押します。機能針がわずかに動けばオールリセット完了です。

(3) Ⓐボタン、またはⒷボタンを押して機能針とモード針の両方を0位置に合わせます。
Ⓐボタン：反時計回りで修正できます。
Ⓑボタン：時計回りで修正できます。
（ボタンは押し続けると早修正できます。）
*機能針とモード針は連動しています。

(4) りゅうずを回して時刻を正しく合わせ直します。（28ページの「6. 時刻・日付の合わせ方（時刻モード）」を参照してください。）

(5) りゅうずを通常位置に押し込み、ねじをきちんと締めます。
りゅうずを押し込むと時刻モードに切り替わり、スタートします。

* オールリセット後は、機能針は充電量に関係なくN.Gを示します。約1時間経過すると通常の充電量目安表示となります。(機能針がN.Gを示している間はダイビングモードに切り替わりません。)
* オールリセット／針位置の修正を行っても問題が解決されない場合には、お買い上げ店、または弊社サービスセンターにご相談ください。

オールリセットを行うと、記憶されている最大深度メモは消去されますので、ご注意ください。

12. 二次電池について

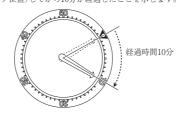
この時計に使われている二次電池は、水銀などの有害物資が一切使われていないクリーンエネルギー電池です。二次電池は、充電、放電を繰り返し行えるため、一般の電池のように定期的な電池交換の必要はありません

13. その他の機能

【回転ベゼル】

回転ベゼルとは、時計の本体の周りについている回転リングの部分をいいます。経過時間を測定することができます。

【回転ベゼルの使い方】

潜水を開始するときに回転ベゼルを左回転させて▽マークを分針に合わせます。以後、分針の示す回転ベゼル上の目盛を読めば経過時間がわかります。
例）右図では潜水を開始(▽マーク位置)してから10分が経過したことを示します。

⚠ 注意

- 回転ベゼルは誤作動防止のため反時計方向にだけ回転させることができます。
  無理な力で時計方向に回転させようとすると回転ベゼルの破損になりますのでご注意ください。
- 回転ベゼルはあくまでも目安としてご使用ください。

【無減圧限界値(No Decompression Limits)】
ダイバーが潜水を終えて浮上する途中、減圧のための停止をしないで海面に浮上できる範囲は、潜水深度と潜水時間により決まります。この範囲を示したものが無減圧限界値(No Decompression Limits)です。
この時計のバンドには、米国海軍ダイビングマニュアル(1993年版)に基づいた無減圧限界値(No Decompression Limits)が印刷されています。(モデルにより印刷されていないものがあります。)

No Decompression Limits
(無減圧限界値)

—無減圧限界値の読み方—

DEPTH.m (最大深度m)		N.D.TIME (無減圧時間)
12m	....	200分
15m	....	100分
18m	....	60分
21m	....	50分
24m	....	40分
27m	....	30分
30m	....	25分
33m	....	20分
36m	....	15分
39m	....	10分
42m	....	10分
45m	....	5分

例)
21mの深さまで潜ったときの潜水時間が50分以内であれば、減圧のための停止をせずに浮上してもよいというようにお読みください。

⚠ 注意

- この無減圧限界値表は1回の潜水のためのものです。
- 無減圧限界時間は、体調や個人差によって異なります。この時計に印刷されている無減圧限界値は、潜水行動の目安としてのみご使用ください。
- 減圧停止の必要がある潜水をする場合には、必ず潜水専用マニュアルに従ってください。

14. 使用上の注意

警告　防水性能について

- この時計は200m防水時計です。空気ボンベを使用した空気潜水（スキューバ潜水）には使用できますが、ヘリウムガスを使用する飽和潜水などには使用できません。

表示 ケース（裏ぶた）	水がかかる程度の使用。（洗顔、雨など）	水仕事や、一般水泳に使用。
AIR DIVER'S 200m	○	○

使用例				
	スキンダイビング、マリンスポーツに使用。	空気ボンベを使用するスキューバ潜水に使用。	ヘリウムガスを使用する飽和潜水に使用。	水滴がついた状態でのりゅうずやボタンの操作。
	○	○	×	×

警告　防水性能について（つづき）

- この時計に使用されているパッキンは消耗品であり、長期間のご使用により劣化いたします。パッキンが劣化すると、防水性能を維持できなくなり、時計内部に水が入り、時計の機能異常や止まりの原因となる場合があります。2～3年毎に弊社にて定期点検(有償サービス)をお受けになり、必要に応じてパッキン、ガラス等の交換を行ってください。
- 時計内部に水が入ったり、ガラス内面にクモリが発生し長時間消えない場合は、そのまま放置せず、お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へ修理・点検をご依頼ください。
- 時計内部に海水が入った場合は、箱やビニールに入れてすぐに修理をご依頼ください。時計内部の圧力が高まり、部品（ガラスやボタンなど）が外れる恐れがあります。
- 防水性能確保のために、確実にりゅうずを押し込んでからご使用ください。ねじロックりゅうずモデルの場合は、必ずりゅうずをロックしてください。
- 時計が濡れているときは、りゅうずを操作しないでください。

注意　時計は常に清潔に

- 金属部分の腐食や、付着した汗・汚れ・ほこりで衣類の袖口などを汚す場合があります。常に清潔にしてご使用ください。
- バンドは多少余裕を持たせ、通気性を良くしてご使用ください。
- 皮革バンドは光や汚れにより「色落ち」を起こすことがあります。乾いた布で拭くなどして常に清潔にご使用ください。

注意　充電上の注意

- 充電の際に時計が高温になると、外装部品の変色や変形及びムーブメント部品の故障などの原因となります。
- 高温下(約60℃以上)での充電はおやめください。

例)

—白熱灯やハロゲンランプなど、高温になりやすい光源での充電

— 車のダッシュボードなど、高温になりやすい場所での充電

注意 人への危害を防ぐために

- サウナなど時計が高温になる場所では、やけどの恐れがあるため、絶対に使用しないでください。
- 激しい運動や作業をおこなうときは、ご自身や第三者へのけがや事故に十分ご注意ください。
- 幼児を抱くときなどは、けがや事故防止のため、あらかじめ時計を外すなど十分ご注意ください。
- ケースやバンドは直接肌に接しています。体質や体調によっては、皮膚にかゆみやかぶれを生じる場合があります。異常を感じたら、すぐに使用を中止して医師に相談してください。

かぶれの原因
• 金属･皮革アレルギー • 時計本体及びバンドに発生したサビ･汚れ･付着した汗など

注意 携帯時の注意

＜温度について＞

- －10℃～+60℃の温度範囲外では､時計が停止したり､機能が低下する場合があります｡製品仕様の作動温度範囲外でのご使用はおやめください｡

＜磁気について＞

- アナログ式クオーツ時計は､磁石を利用した｢ステップモーター｣で動いており､外部から強い磁気を受けると､モーターの動きがみだれて正しい時刻を表示しなくなる場合があります｡磁気の強い健康器具(磁気ネックレスや磁気健康腹巻)､冷蔵庫のマグネットドア､バッグの留め具､携帯電話のスピーカー部､電磁調理器などには近づけないでください｡

＜静電気について＞

- クオーツ時計に使われているICは､静電気に弱い性質を持っています｡強い静電気を受けると正しい時刻を表示しない場合がありますので､ご注意ください｡

<ショックについて>

- 床面に落とすなどの激しいショックを与えないでください。

<化学薬品・ガス・水銀について>

- 化学薬品やガスの中でのご使用はおやめください。シンナーやベンジンなどの各種溶剤及びそれらを含有するもの(ガソリン・マニキュア・クレゾール・トイレ用洗剤・接着剤など)が時計に付着すると、変色・溶解・ひび割れなどを起こすことがあります。また、体温計などに使用されている水銀に触れたりすると、ケースやバンドが変色することがありますのでご注意ください。

<その他>

- ウレタンバンドの場合は衣類などの染料や汚れが付着し、除去できなくなることがあります。色落ちする衣類やバッグなどと一緒に使用するときはご注意ください。また、溶剤や空気中の湿気などにより劣化する性質があります。弾力性がなくなり、ひび割れを生じたらお取替えください。
- バンドの中留め構造によっては、着脱の際に爪を傷つける恐れがありますのでご注意ください。

15. 時計を末永くお使いいただくために

日常のお手入れ

- りゅうずやプッシュボタンを長期間動かさないままにしていると、ゴミや汚れが付着して操作ができなくなることがありますので、ときどきりゅうずを空回りさせたり、プッシュボタンを押してください。
- ケースやガラスに付着した汚れや汗などの水分は、柔らかい布で拭き取ってください。
- 金属バンド・プラスチックバンド・ゴムバンドは水で汚れを洗い落としてください。金属バンドのすき間につまったゴミや汚れは、柔らかいハケなどで取り除いてください。
- 溶剤類（シンナーやベンジンなど）の使用は、変質の恐れがありますのでおやめください。

保管について

- 時計を長期間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分などをよく拭き取り、高温・低温・多湿の場所を避けて保管してください。
- 時計を長期間ご使用にならないときは、充電不足にならないように、できるだけ光が当たる場所で保管してください。

文字板や針が光っているときは

時計の文字板や針には、放射線物質などの有害物質を一切含まない人体や環境に安全な物質を使用した蓄光塗料が使用されています。
この塗料は、太陽光や室内照明などの光を蓄え、暗い所で発光します。

- 蓄えた光を放出していくと、少しずつ明るさ(輝度)は落ちていきます。
- 光を蓄えるときの光の明るさや光源からの距離、照射時間、蓄光塗料の量などによって発光する時間に誤差が生じます。
- 光が十分に蓄えられていないと、暗い場所で発光しなかったり、発光してもすぐに暗くなってしまう場合があります。ご注意ください。

16. 保証とアフターサービス

<保証について>

この時計のバンドを除く全ての修理は「メーカー修理」となります。
正常なご使用で、保証期間内に万一故障が生じた場合には、保証書に従い、無料修理いたします。

<修理用部品の保有期間について>

当社は、時計の機能を維持するための修理用部品を通常7年間を基準に保有しております。ただし、ケース・ガラス・文字板・針・ボタン・バンドなどの外装部品については、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

<修理可能期間について>

当社の修理用部品の保有期間中は修理が可能です。ただし、ご使用の状態・環境でこの期間は著しく異なります。修理の可否については、現品ご持参の上販売店でご相談ください。なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期精度の復元が困難な場合があります。

＜ご転居・ご贈答品の場合＞

保証期間中にご転居されたり、ご贈答品のためにご使用の時計がお買い上げ店のアフターサービスを受けられない場合には、弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。（→60ページ）

＜定期点検（有償）について＞

安全に長くご使用いただくために、2〜3年に一度、点検（有償）を行ってください。
防水時計の防水性能は経年劣化しますので、防水性能を維持するために、部品の交換が必要です。必要に応じてパッキングやバネ棒などの交換を行ってください。
部品交換の際は、純正部品とご指定ください。交換だけでなく他の部品の点検または修理を行う必要がある場合もありますので、交換修理料金など、詳しくはお買い上げ店または最寄りの弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。（→60ページ）

＜その他お問い合わせについて＞

保証や修理、その他不明な点がございましたら、お買い上げ店または弊社お問い合わせ窓口へご相談ください。（→60ページ）

17. 製品仕様

1. 機種 B740/B745
2. 時間精度 .... 平均月差±15秒
   (常温+5゜C〜+35゜C携帯時)
3. 水深計測精度 .... 1m〜10m: ±1m以内
   11m〜50m: ±2m以内
   但し使用温度一定、読み取り誤差を含まない場合
   *精度保証温度範囲: +10°C〜+40°C
   水深計測精度は携帯温度変化の影響を受けます。
4. ウォッチ作動温度範囲 .... −10°C〜+60°C
5. 表示機能 .... • 時刻: 時、分、秒、24時間、充電量目安表示
   • 日付
   • クロノグラフ: 分、秒(50分計、1秒単位)
   • 水深計測: 1m〜50m
     1m単位
     1m未満は0m表示
     50m異常はオーバーゾーン表示
   • 最大深度メモ: 1m〜50m

6. 付加機能..・充電量目安表示機能
・充電警告機能
・停止警告機能
・時刻合わせ告知機能
・過充電防止機能

7. 持続時間..・フル充電〜時計停止まで: 約2ヶ月
・フル充電〜N.G表示まで: 約1ヶ月
・充電警告表示〜時計停止まで: 約2日
* 水深警告やクロノグラフ計測などの使用頻度によって持続時間は大きく変化します。またダイビング以外で時計を濡らすと水感知センサーが働き、その分持続時間が短くなりますのでご注意ください。

8. 使用二次電池..................................二次電池　1個

*製品仕様は、改良のため予告なく変更することがあります。